



こんにちは。
町長です。

健康寿命の延伸を

町の総人口に占める高齢者(65歳以上)の比率は、平成29年7月現在で35.6パーセントとなっており、埼玉県平均より10パーセントほど高くなっています。平成35年には、

40パーセントを超えることが推計されています。

また、高齢者のひとり暮らしの世帯数は、平成27年で501世帯、高齢夫婦世帯(夫婦いずれかが65歳以上である世帯)の数は701世帯であり、今後増加していくものと予測されます。

このような状況の中で、町民一人ひとりが健康で長生きできることが、町にとっても一番望まれることであると思います。

町では、平成14年の町立病院の増築に併せて保健福祉センターを併設し、町立病院を核として地域包括医療ケアシステムを立ち上げ、急速な高齢化や疾病の

多様化複雑化に対応するため保健、予防から医療、リハビリ、介護までの一貫した支援の提供が出来る体制を築いてまいりました。

このシステムは町民が住みなれた地域で、いつまでも健康であり続けることを最大の目標として、必要な時には適切な医療や介護サービスなどが受けられることが特徴であり、県内でも先進的な取組として高い評価を受けています。

しかし、このシステムを維持して行くことは大変なことであり、医師、看護師、介護スタッフなどの人材確保問題をはじめ、増え続ける保健、医療、福祉、介護などのサービス需要に対する財源確保の課題など解決しなければならないことが山積しております。

町単独ではなかなか解決が難しい問題もありますが、国・県の動向を注視しながら、町民や民間事業者等の理解と協力を得て対応していかねばならないと存じます。

町民の皆様には、是非、自分の健康は自分で守ることに最大限お努めいただき、健康寿命を延ばしてもらいたいと思います。

小鹿野町長 森 真太郎